

全国ユース環境ネットワーク

全国ユース環境活動 事例集 2019



第5回全国ユース環境活動発表大会全国大会 環境大臣賞受賞
広島県立世羅高等学校 団体名:鯉米 活動名:錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

本誌「全国ユース環境活動事例集 2019」は、全国の高校生や大学生のユース世代が、2019年度に実践した環境活動を広く紹介し、情報交換や交流の推進を図るために発行しています。

2019年度

全国高校生の環境活動

掲載の地区別(都道府県)は、環境省地方環境事務所の所管する都道府県別で区分しています。



北海道


15 団体

北海道旭川農業高等学校

森林環境班

旭農版コンテナ苗の生産 ~ササを利用し北海道に新たな育苗技術を~

コンテナ苗の育苗は、次世代の育苗技術。コンテナ苗の生産が今後の林業を変える一つとして期待されている。私たちはこれからの基盤となる旭農版のコンテナ苗育苗マニュアルを作り、後輩たちに技術を伝えるために研究を進めている。




北海道美幌高等学校

環境改善班

オホーツクの自然を守れ！オホーツクで実践した自然環境改善の成果

1. 小学生から高校生を対象とした「ウチダザリガニ駆除を中心とした環境交流会」。2. 網走湖での環境調査。3. 鶯沢川でのウチダザリガニ影響評価調査。4. 大規模なウチダザリガニ駆除活動。5. ウチダザリガニの有効利用の研究。




北海道標茶高等学校①

地域環境系列 環境ゼミガイド班

地域と連携した釧路湿原保全のためのガイド活動

釧路湿原は近年、開発に伴い失われた自然を取り戻していくことが課題。そこで釧路湿原を守るための意識向上や地域への誇りを高めるため、フットパスや体験的なガイド活動を行っている。釧路湿原ノロッコ号の観光客にPRもしている。




北海道士幌高等学校

環境専攻班・士幌環境講座

士幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために

十勝管内士幌町に残されたカシワ林の保全啓発に取り組み、地域から全国にかけて積極的な発信活動を行っている。また、活動の更なる発展を目指して知床に研修に行き、その成果を活かして「士幌高校版ナショナル・トラスト運動」を開始した。




北海道羽幌高等学校

1 学年

羽幌シーバードフレンドリープロジェクト

昨年度より、羽幌シーバードフレンドリープロジェクトの一員として地域に根ざした環境教育に一層力を入れている。海鳥を取り巻く自然環境の保全と羽幌地域の産業振興の両立を目指し、自然環境を更に良くしていくことに取組む。




北海道北見北斗高等学校

サイエンスクラブ GAP

常呂川は僕らの体を流れている ~水でつなげるGAPの活動~

常呂川水系の水質・底生動物調査を継続して毎年行っている。市民の水環境保全意識向上と地域のゴミ問題をよく知ることを目的に水環境保全シンポジウム「水ミーティング2019」を企画・開催した。北見エコスクールSDGs協議会にも加入した。




北海道標津高等学校

自然科学部&自然環境系科目&生徒会

地域との繋がりで紡ぐ環境保全活動

自然科学部=エゾトミヨ、モウセンゴケの状況確認。海洋プランクトン調査では栄養塩類の測定、クロロフィルの測定。自然環境系科目=森林環境活動、湿原環境活動。生徒会=海岸環境美化活動。地域への貢献をテーマに活動を実践している。




北海道標茶高等学校②

地域環境系列 環境ゼミキノコ班

標茶高校敷地内に自生するキノコの調査と考察

高校敷地内の軍馬山山道及び軍馬川源流山道に自生するキノコを発見・鑑定し、今年度は合計135種類のキノコを同定した。自生するキノコの魅力を発信するためにオリジナルRPGを制作し、誰でもプレイできるようにネット上にアップロードした。




北海道帯広農業高等学校

十勝川中流部川づくり班

トカプウシイの命の力 ~攪乱から再生、新たな川づくりへ~

市民と高校生とが十勝川中流部での湿地再生による生物多様性の回復を目指す。平成30年、台風出水前よりも魚類生息数、個体重量がともに増加していることがわかり、この結果を攪乱の影響として考察し新たな川づくりの可能性を探っている。




市立札幌開成中等教育学校

じー's

環境×SDGs

学生ならではのアプローチからSDGsを広める活動をしている。ワークショップの開催やゲームの開発、展開を行っている。また、木質バイオマス発電に興味を持ち、より木質バイオマスに適した樹種は何かというテーマで課題研究を行った。




北海道登別明日中等教育学校①

意思の硬い石を!!

おいでよふおれすと鉱山 ~石を添えて~

ふおれすと鉱山の活動を知ってもらい、地学・資源について知ってもらう。旧幌別鉱山を教材とし、鉱物に親しみ、資源が限りあることを参加者に学んでもらうため、「君もトレジャーハンターだ!」の企画運営に取り組んでいる。




北海道七飯高等学校

七飯高校科学部

渡島大沼の生物多様性を保全する取り組み

渡島大沼は、富栄養化した水に適応したウシガエルやアメリカザリガニ等の外来種の増加など、生物多様性の喪失が問題となっている。そこで、水質改善方法の研究、ウシガエルなど外来種に関する調査研究を開始。啓発活動にも力を入れる。




東北


26 団体

青森県立柏木農業高等学校

生物活用班

For the future of Shirakami~ブナの森を守り、新しい森を作る~

広大なブナ原生林世界自然遺産の白神山地。津軽白神湖湿地ビオトープ周辺に残る津軽ダム工事残土捨て場に植樹活動、そして外来植物のニセアカシアの駆除研究を行っている。工事残土捨て場では、世界遺産認定30周年まで植樹を行う予定。




青森県立名久井農業高等学校

Treasure Hunters

乾燥地の土壌流失抑制と食料増産のための集水技術の開発

西アフリカなどの乾燥地では、降雨が極端に少なく土壌は栄養分が乏しい。そこで、日本の伝統技法「三和土技術」を応用し、西アフリカなどの乾燥地で雨水を効率よく集め、食料と環境問題の解決に貢献する技術開発活動に取り組んでいる。




札幌日本大学高等学校

科学部 地球規模課題グループ

オガクズの再活用

パイオトイレで使用されているオガクズを調べ、アンモニアの吸着実験やオガクズの水分保持率などについてさらに研究を進めている。今後は、オガクズが持っている性質の素晴らしさや林産廃棄物再利用の重要性を発信していく予定である。




北海道登別明日中等教育学校②

りよーたろーとゆーせーの嵐を呼ぶみらくるクッキング

外来魚を減らすためには

外来種の増殖により在来魚が減ってきているため、どうすれば外来魚を減らせるのか考えている。活動)①近くの川、ダムへ生態調査、②虹鱒の養殖場への聞き込み、③NPO法人「いぎものいんく」への聞き込み、④養殖した虹鱒の試食開催。




北海道函館水産高等学校

なかの研究所

渡島大沼流入河川における水質調査および魚類調査

大沼や流入河川の周辺を改善するために、EM菌による堆肥作り、大沼湖畔の美化活動、刈間国有林の植林、間伐体験などを行い、七飯町文化祭、世界水フォーラム(フランス大会)で発表した。水質調査に加え、魚類調査も行った。




青森県立むつ工業高等学校

R1 課題研究 地中熱融雪研究班

地中熱利用による融雪研究

雪国の宿命である雪処理に関して、自分たちの手で実際に融雪装置を設計・製作する。融雪状況の検証を行い、システム改善、地中熱利用の将来性、SDGs持続可能な社会づくり、工業分野におけるものづくりを通して、社会貢献を目指す。




青森県立八戸北高等学校

総合的な学習(探究)

ESDプロジェクト

八戸市とその近郊における環境保全について調査、見学、発表を行っている。また、エコキャップ回収活動や「届けよう、服のチカラ」プロジェクト等の社会貢献活動を行い、持続可能な社会づくりに向け自分の関わりについて考え意識を向上させている。




岩手県立花巻農業高等学校

食農科学科 ソーセージ研究班

羊豚ソーセージの研究

岩手県南地域では、耕作放棄地の有効利用の対策の一つとして肉用種の羊を飼育している。岩手県流通課の推進しているラム肉と県産のブランド豚である白金豚を使った羊豚ソーセージの研究を進め、羊肉生産農家の生産物の可能性を広げたい。



岩手県立遠野緑峰高等学校

生産技術科草花研究班

摘花された花たちの再利用～天然色素から生まれるホップ和紙の新たな挑戦

本校では、毎年約25,000本の花を生産し、株を大きくするため「摘花」を何度も行い、年間500kgもの花を廃棄処分する。そこで、摘花された花から天然色素を抽出し、染料として再利用させ、ホップ和紙を染色し、付加価値を与える研究に取り組む。



岩手県立釜石高等学校

SS探究 I

地域課題とSDGs

地域課題とSDGsを関連させた講義・ワークショップ・フィールドワーク等を行い、課題解決のためのアクションプランを各自が作成する。そのアクションプランをポスターにまとめ、各クラスや文化祭で展示発表を行い、さらにより深く調査・実験を行っている。



仙台高等専門学校 名取キャンパス

仙台高専 香りの抽出グループ

松がレモンの香り？クロマツで無添加除菌スプレーの開発！

クロマツから採れる精油には脱臭・抗菌作用を示す成分であるピネンやリモネンが含まれる。私たちは、精油の抽出法「水蒸気蒸留法」を用いてクロマツの成分を抽出し、クロマツの香りや抗菌性のある無添加抗菌スプレーを開発している。



山形県立鶴岡南高等学校

探究活動「鶴南ゼミ」

地域活性化

全校生徒が取り組む探究活動で、地域活性化の活動をしている。昨年度、寂しくなってしまった鶴岡駅前には活気を取り戻すべく「鶴お菓子祭り」を企画運営した。今年度はイベントの更なるパワーアップといかにして地域活性化につなげていかかというテーマを掲げて活動をしている。



秋田県立秋田北鷹高等学校

科学部 ESD班

開発途上国における地球温暖化の知識・意識に対する環境教育プログラムの実践活動

今後、二酸化炭素の排出量が増加すると見込まれる開発途上国で地球温暖化への知識・意識を改善するため、マレーシアサバ州コタキナバル市内で大人向けセミナー1カ所、小学校1校、高校3校、合計260名に環境教育プログラムを実施した。



秋田県立羽後高等学校

生徒会執行部2年生

羽後高校の環境活動

地域に開かれ、地域に信頼され、小さくとも温もりのある学校を目指して環境活動を実施。①県民参加の植樹や育樹活動の実施、②コンタクトレンズの空ケースの回収やリサイクルの推進、③環境美化活動、④空き家の活用について検討



山形県立村山産業高等学校

農業部バイオテクノロジー班

エンドファイトで施肥削減！地球に優しい農業を実現する

エンドファイトは、悪い影響を宿主植物に与えない微生物の総称。本校の演習林や牧草地などの土壌から地域特産物のソバに対応したエンドファイトを見つけ、ソバの収量に関する改善策としてエンドファイトを活用した農業を提案している。



創学館高等学校

モノづくり倶楽部

SDGsで広がる協働の和 ～人と人のつながり～

①再資源を利用したものづくり教室、②地域行事への参加、③高齢者事故防止運動、④自然エネルギーを利用した横断歩道表示器の設計・製作。学校で排出されたペットボトル18,000本で戦艦型みこしを製作。天童夏まつりコンテストに参加した。



宮城県志津川高等学校

自然科学部

松原干潟の生物調査

志津川湾は、2018年、ラムサール条約湿地に登録された。その最奥部が松原干潟。「南三陸少年少女自然調査隊」とともに「松原干潟と八幡川の生物調査」を合同で行っている。また、松原干潟における導流堤工事の影響評価も行っている。



宮城県富谷高等学校

水素プロジェクトチーム

水素プロジェクト

水素社会の実現に向けて富谷市の取り組みを知るために、講演会や施設見学を実施。水素ステーションの見学や水素エネルギー実験も行った。富谷市の抱える課題の解決に水素社会の実現に向けた取り組みを活かす提案ができないか検討している。



山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部

メダカの学校Ⅱ ～小学生とともに学ぶ地域の生き物～

山形市内の小学校5年生と一緒にピオトープでキタノメダカを放流した。キタノメダカはピオトープで順調に繁殖し、現在百匹以上に増えている。ヤゴやアメンボなどもさらに増えている。キタノメダカの生息地の調査も行っている。



米沢興譲館高等学校

環境DNA班

環境DNAを用いた希少生物ゲンゴロウ属の調査方法の確立

「環境DNAを用いた絶滅危惧種の調査方法の確立」の研究を行っている。ゲンゴロウ属のDNA調査を開始。ゲンゴロウ属の急速な生息数の減少と野生環境下で実際に観察したことで、生物多様性の保全の重要性と身近な自然の大切さを痛感した。



宮城県利府高等学校

自然科学部・ROGER

赤外線温度計を用いた利府町内の地温計測と植生土壌の関係調査

紫外線量・ガンマ線量を計測している。この中で土壌の土質や水分量とガンマ線の影響を調べ各種研究会にて発表を行った。また上空や地面での赤外線温度計での温度計測を行っている。新たに植生と地温の関係についても計測を始めた。



宮城県多賀城高等学校

SS科学部

宮城県多賀城高校Bursa.パスターズ ～多賀城高校の松枯れの原因を探るPart3～

「多賀城高校の松枯れの原因を探る」をテーマに緑化環境の保全活動をしている。①アカマツの健康状況調査、②マツノザイセンチュウの検出、③気孔の汚染調査、④土壌成分の分析。各種環境イベントや研究発表会で広く発表している。



福島県立葵高等学校①

科学部 メダカ班

会津メダカからみる遺伝的攪乱の研究 ～ご当地メダカを守れ～

福島県会津地域に生息する野生メダカ（会津メダカ）の遺伝的攪乱の調査を通して、生態系の保全活動の研究を実施。会津地域全域を対象に41カ所を探索し、17カ所で野生メダカの生息を確認。他地域由来のメダカが侵入している事実が判明した。



福島県立葵高等学校②

科学部 水質班

定量化できる水質測定法の開発 ～信頼性・再現性のある濃度測定を目指して～

河川の水質調査で、信頼性と再現性のある濃度測定法の開発を目指し、「バックテスト」と「ピコエクスプローラー」を併用した濃度測定法を開発。全国で実施される水質調査に活用してもらえるよう、学会や論文でデータを公開する予定である。



仙台白百合学園高等学校①

30LS04

家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか

家庭の食品ロス削減を大きな目標としている。食品を無駄にしないレシピを作成しコンテストに応募。学校説明会でポスターセッションを実施。学園祭で英語でSGH活動発表。食材を無駄にしない、家庭で実践しやすいレシピの考案に挑戦している。



仙台白百合学園高等学校②

30LS05班

再エネ化による経済効果

「再エネ化による経済効果を人々に知らせることで、社会への普及を図ることができる」と考え、アンケートや発表、論文応募を実施。現在、学校の敷地面積、使用電力量を調べ、再エネを導入した場合の電気代節約やCO₂排出抑制量を調査中。



福島県立平工業高等学校

生徒会

「もったいない！」から、はじまる環境活動

①アルミ回収による老人ホームへ車椅子寄贈、②アフリカ・マリ共和国ヘジャージや運動靴を贈る活動、③インカートリッジ回収による開発途上国支援、④ペットボトルキャップ回収による世界の子供達にワクチンを贈る活動。



関東

26 団体

宮城学院中学校高等学校

特活自然科学班

食用廃油の資源化

食用廃油は、現在多くの自治体で回収され、バイオディーゼル燃料に加工利用されている。私たちは、食用廃油を食用になるタンパク質に変えることにより、環境問題と食料問題の同時解決を目指した研究に取り組み研究発表を行っている。



宮城県農業高等学校

科学部復興プロジェクトチーム

循環型育成法から生まれた桜塩で目指せ！桜の国

東日本大震災後、浸水した校庭に咲く桜に希望と勇気を与えられ「桜保存プロジェクト」を始動。昨年、「宮農復興の桜」42本が植えられた。現在、桜の摘花で桜塩生産・販売、宮農式循環型育成法Ⅳを構築。桜の国実現を目指している。



茨城県立竹園高等学校

スーパーサイエンス部 (SSC) 生物班

低投入多収型稲作法SRIの普及に向けた検証 ～里山の生物多様性の保全およびSDGsの達成を目指して～

新しい稲作技術SRI農法の多収量の要因を科学的に検証し、その普及の礎を築くことを目指し研究に着手。今後、科学的知見が蓄積し、信頼性が向上し普及が進めば、多収量・低環境負荷の稲作が実現し、生物多様性保全、SDGs達成に貢献できる。



栃木県立那須拓陽高等学校

大山農場プロジェクト

「オシャラクブナの里」創造計画

栃木県那須地区を「オシャラクブナ（ミヤコタナゴの方言）の里」としてブランド化していく。ミヤコタナゴが住める環境を再生して生息地を増やし、生物多様性の保全を図る。地域ぐるみで、人と自然が共生する持続可能な社会を構築する。



栃木県立真岡北陵高等学校

ペンタゴンプロジェクト

遊休農地を活用して～綿花栽培を通じた地域貢献～

遊休農地の有効活用策として土地の復元から綿の栽培と、収穫された綿で高齢者の心が浮き立つようなバック等の製造・販売に取組み、障がいのある方に対し就労の機会や社会参加の機会の提供を行い、地域の活性化に繋げたいと活動している。



栃木県立栃木農業高等学校

農業環境部 環境活動班

新しい時代の道普請 ～パートナーシップによる地域環境保全～

豪雨災害で発生した土砂廃棄物を再利用し、放置ため池改修や林道整備に応用している。協働活動「道普請」を組織化。市民参加型の「道普請ウォークin太平山」を実施。市民意識調査や行政機関へのヒアリングもとりまとめている。



東京都立国際高等学校

For

What's more can we do ～世界の労働者を私たちの手で守る～

エシカル消費の中で、身近なファッションに焦点を当てて活動している。フェアトレードやファストファッション、エシカルファッションについてポスターとアニメを作成、拡散。SNSでエシカル消費やエシカルファッションについて紹介。今後もフェアトレード認証されたもの、エシカルファッションを扱うようにしたい。



國學院大學久我山高等学校

久我山環境保全プロジェクト

ゴミから見る環境保全

本校が排出しているゴミの量に驚き、回収業者に講話を開いてもらった。現在、ペットボトルのキャップをより良くリサイクルする活動、ゴミを減らすために3Rを啓発、バザーで不用品の販売をするなど、ゴミの排出量削減を目指している。



群馬県立利根実業高等学校

生物資源研究部

二ホンジカの赤城山北西麓における生態・行動研究と玉原湿原におけるミズバショウ群生地の保護活動

目的はシカによる農林業被害の抑制。①シカの季節毎の行動サイクルの究明、②「ぬた場」での繁殖行動の究明、③広域拡散化の要因究明、④圃場への侵入防護抑制、⑤生息数調整、⑥ミズバショウ群生地の防獣ネット設置、⑦出前授業など。



群馬県立伊勢崎興陽高等学校

バイオテクノロジー研究部

放置竹林の可能性を探る

竹の新たな利用法を探りキノコ栽培資材に転用した。青竹が元々持ち合わせている抗菌性を利用し、従来のおがくずを竹チップに、ポリプロピレン製容器を竹筒に替えてヒラタケ栽培を行った。結果、慣行法と差がない生育、収量が確認できた。



東京都立国分寺高等学校

生物部カラスバト班

調査研究「天然記念物カラスバトはどのような環境を好むか」

天然記念物のカラスバト。個体数も少なく、生息地も伊豆諸島や近海の島嶼部に限られる。本種がいなくなってしまうということになりかねないと思い、この鳥がどのような環境を好むのかを考察。結果を公表し広く沢山の人の知ってもらおう。



東京都立大島海洋国際高等学校

波浮姫ゴミ拾い隊

大島における海洋ゴミの漂着状況について

大島波浮港の特定の浜で、ゴミの漂着状況を確認し、回収を行った。回収したゴミは、種類ごとに分類し重量を測定。月毎に漂着状況に違いがあり、プラスチック類、外国からの漂着ゴミ、ビンやペットボトルなどの日用品が多く回収された。



千葉県立松戸南高等学校

Team Quad-E (Ecological Environmental Engineering Education)

地域の生態系保全のための技術の研究～みんなで楽しくピオトープづくり～

ピオトープづくりの技術に挑戦し、生態系保全活動を応援したい。活動は①「水草ケージの作成と運用～動物たちから沈水植物を守り育てる～」、②「冬期灌水水田作成のための水撃ポンプの製作及び設置～よみがえれ、冬水田んぼ～」など。



千葉県立鎌ヶ谷西高等学校

Team KAMAGAYA

繋げよう Team KAMAGAYA

ユネスコ委員会を設置し、UNIQLOの「服のチカラプロジェクト」活動に取り組む。また、書き損じはがき、歯ブラシ、ペットボトル、古紙回収、市民祭りのワークショップ、ひまわりを育てる川美化活動、CO₂削減のキャンドルナイトなどを行った。



東京都立大島高等学校

カメラユナイテッド

島の地域資源「ツバキ」を守れ ～特定外来生物タイワンリスを撃退せよ～

伊豆大島の特産品であるツバキを守り、伊豆大島の生態系や島民の生活を守ることがねらい。ツバキを食害するタイワンリス問題を看過できなくなり、防除に取り組み126匹捕獲。町の政策が変わり、捕獲方法の説明会も開催された。



洗足学園高等学校

横浜川崎Blue Earth Project

Take Action Make Change

プラスチックごみ問題、COOL CHOICE、SDGsなどに取り組んでいる。活動はイベントへの参加。①SATOYAMA&SATOUMIへ行こう! 2019「クイズ、ミサンガ作り、写真立て、ペットボトル加湿器作り」、②エコライフ・フェア「ペットボトル加湿器作り」、③SDGsの説明など。

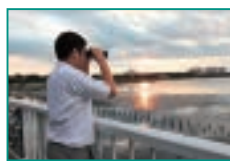


千葉県立津田沼高等学校

理科部生物班 鳥類担当

アオサは善か?悪か?

海藻の「アオサ」は谷津干潟にとって悪者と思っていたが、全く無くなって困るのではないかと考え、ヒドリガモ、オナガガモ、オオバンをデータ分析した。アオサの繁茂が、ある種にとっては必ずしも悪影響ではないということが分かった。



埼玉県立熊谷高等学校

生物部

過去3年間の熊谷市成田用水における水生動物の調査

毎月、魚類などの水生生物を採集し気温などの環境データも収集する。特定外来種コクチバスは、その場で処理し解剖を行い食性なども調べた。データの集積の結果、生物多様性の季節的な変動と原因を考察した。研究発表や清掃活動も行った。



光明学園相模原高等学校

理科研究部

カラワノギクの保全と地域の生物多様性

河川の丸石河原に生育するキク科の植物カラワノギクが急激に減少している。すでに生育が確認されている場所は、相模川水系、多摩川水系、鬼怒川水系のみ。地域の方々や行政の方、研究者と共に、絶滅させないための活動を継続している。



慶應義塾湘南藤沢高等学校

環境プロジェクト

人との繋がりが広げる環境活動の輪

有志団体として約125名で活動している。今年度の活動目標は、SDGsの啓発。5つのワーキンググループで活動し、2002年の設立当初から活動している①高校生環境連盟、②教育デザイン班。さらに③企業連携班、④子供支援班、古民家班に取り組む。



神田女学園高等学校①

海洋プラスチックTシャツ

海洋プラスチックについて

洋服の「大量在庫・大量廃棄」の問題と海洋プラスチックという世界的な環境問題がテーマ。フィールドワークで情報収集を行った。今後は「海洋プラスチックTシャツ」プロジェクトを学校全体で行う。リサイクル活動にも参加していく。



神田女学園高等学校②

海を大切に

海の底には～野生生物に迫る危険～

プラスチックが及ぼす海への影響を軽減していく。夏休みにフィールドワークの情報収集を行い、文化祭でポスターセッションを行った。今後、魚やイカなどの胃の解剖を行い、内容物にプラスチックがどれだけ入っているか調べようと思う。



学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校

バイオメタン班

バイオメタンのある暮らし

校内でバイオメタン生成実験を実施。太陽熱温水器、太陽光・風力発電機を用いてバイオメタン施設運転に必要な熱や電気を作り、他からの供給に頼らないでバイオメタンを生成する「自立型バイオメタンシステム」の実際の運転を行っている。



静岡県立清水西高等学校

自然科学部

熱中症予防のための実測データ活用の提案

気温が身体にどのように影響を与えるかを知ることが熱中症予防に必要だと考えた。8月に1時間ごとの気温と脈拍、呼吸数を調べ、気温と身体の変化に関係があることがわかった。今後は気温の変化傾向について詳しい研究に取り組みたい。



神田女学園高等学校③

Chalk' girls

すぐに短くなってしまいうちのチョークはまだ役目は、終わってない!!

ダストレスチョーク作成の実験を行い情報収集をする。結果を文化祭で発表した。黒板にダストレスチョークを置き、来場者へ書き心地を試してもらった。今後は、ダストレスチョークがどれほど害虫予防に適しているのか実験をしたと思う。



正則学園高等学校

SG-SDGs研究チーム

SDGsからの学び高校生の企業連携プログラム (琵琶湖を通じてSDGsを学ぼう)

琵琶湖の社会課題をどのように解決していくかに取り組む企業プログラムに参加。研修成果を国連大学で実施された「共に創ろうSDGsプロジェクト～SDGs Youth Summer Camp 2019」や学園祭で発表。今後、琵琶湖葦狩りへ参加しより理解を深め、情報発信していく。



静岡県立浜松城北工業高等学校

環境部

～「地球にやさしいエンジニア」を目指して～

①椎ノ木谷での里山づくり・森づくり・自然保護活動、②「城北リサイクルステーション」、③「城北の森」づくり・芝生化整備、④浜松城公園「葵の小道」づくり、⑤中島砂丘・浜名湖・佐鳴湖クリーン作戦、⑥浜松市防潮堤・植樹など。



オイスカ高等学校

浜と松プロジェクトチーム

「浜と松プロジェクト」

①浜松市の観光スポット「日本三大砂丘」中田島砂丘の再生、保全⇒定期的な清掃活動、砂の移動状況の観察、飛砂を抑えるため、在来沿岸植物の播種など。②徳川家康が植えた浜松市木「松」、海岸松林の再生、保全⇒抵抗性マツ林の管理など。



中 部


20 団 体

富山県立中央農業高等学校

地鶏班

比内地鶏活用プロジェクト～地域資源の活用と地域経済の活性化をめざして～

比内地鶏を活用した研究活動を企業と連携して行う。廃棄ロッカーを巣箱代わりに活用し、収卵数を50%増加できた。地域の湧き水を利用し、地域の観光協会推奨の卵として認定された。通常廃棄される卵（約10%程度）を販売する工夫もした。




石川県立津幡高等学校①

園芸部

養蚕復活を通じた里地里山の再生・環境保全活動

里地里山の原風景の再生と環境保全の取組として、耕作放棄地に植樹する桑の苗木の生産を行っている。里山資源（養蚕関連）を生かした特産品の開発にも取り組み、養蚕の実践では「玉小石」という飼育難易度が最高峰の品種に挑戦している。




石川県立翠星高等学校

食品科学研究会

廃棄果皮0宣言！眠っている地域資源を活用した6次産業化計画

石川県金沢市「金沢ゆず」生産者の6次産業化支援のため、「廃棄果皮0システム」を構築。企業や生産者と協働し、ゆずピール煮を使用した「金沢ゆず大福」を完成させ、好調に販売された。「廃棄果皮0システム」の全国展開を進める。



岐阜県立恵那農業高等学校

花咲かみつばち倶楽部

花咲かみつばちプロジェクト～みつばちとともに里山の調査・保全・活用～

里山の生物多様性保全と持続可能な農業を目指し、3つ活動を実施。①Bee Research ～ミツバチの送粉サービスの解明～、②花咲か里山プロジェクト ～耕作放棄地を活用した蜜源植物の増殖活動～、③Honey Produce ～養蜂生産物を活用した地域活性化と価値向上～。

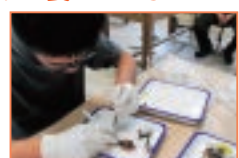


岐阜県立加茂高等学校②

アワーズ

私たちはどれだけのマイクロプラスチックを食べている？

マイクロプラスチックは、海洋汚染に留まらず身近な環境問題である。食卓に上る魚介類の内臓からマイクロプラスチックを取り出し、大きさや数を測定する。ルートを明らかにしプラスチックの生産・利用の在り方について説いていく。




富山県立滑川高等学校

海洋クラブ

滑川高校の環境への取り組み「～貝から海の恵みを学ぼう～」

海洋科生徒全員が所属する組織。「ACT FOR SEA（すべては海のために）」をテーマに、環境と育成に特化した調査研究活動をしている。海岸漂着ゴミ調査を17年続け、ダイビング資格を取得した生徒が潜水で海底ゴミを調査している。



富山国際大学附属高等学校

北陸富山Blue Earth Project (ユネスコ部)

「富山発！地球共生マインド～地域交流・国際交流でのSDGs活動～」

プラごみ削減がテーマ。「第二次エコバグ革命～富山からプラスチックの危険性を社会に広めよう～」とレジ袋削減に着目。富山駅で街頭調査を行い、3月～10月に実施したイベントで500名以上の方に海に潜むプラスチックの危険性を伝えた。




石川県立津幡高等学校②

朱鷺サポート隊

トキを通じた生物多様性の普及・啓発活動

全国の高校で唯一、トキの啓発・保護活動を行っている。佐渡島の野生トキの数が飽和状態に近くなりつつある。そこで、私たちは日本のトキが絶滅する前に本州最後にいた場所、「奥能登地区」の調査と里山保全活動に取り組み始めた。




福井県立福井農林高等学校

SDGs推進チーム

福井農林高校SDGs宣言 ～持続可能な大地を守るために～

SDGsを達成していくために3つのプロジェクトを展開。①福井農林ステッカープロジェクト、②国内森林資源の保全活用プロジェクト。フクしょうゆほかと連携、③「福井農林高校SDGs宣言」。宣言パートナーの福井銀行と協働したプロジェクト。




岐阜県立加茂高等学校①

雨降り帰りたい

アルゼンチンアリから日本のアリを守れ！

日本に定着しているアルゼンチンアリは南米アルゼンチン原産の2.5mmほどの小型のアリで特定外来生物に指定されている。今年、分布調査の継続を行い、駆除を目的とした行動学的実験を行う。また、誘導捕獲装置の開発をめざす。




岐阜県立大垣西高等学校

生物多様性調査班

岐阜県西濃地区における在来タンポポに関する調査

外来タンポポが岐阜県西濃地区にどれだけ侵入しているのかを明らかにする。垂井町を500m四方の区画に分け10サンプルを採集（100地点）。採集地点による外来タンポポの侵入度マップを作成。DNA解析による採集タンポポの判定をした。




名古屋市立名古屋商業高等学校

商品開発研究班

葦から“Zoo” Inspire

SDGsの理念に基づき、「葦を用いたごみ問題の解決」を目標に加えた。現在、ポリプロピレン製ストローの代替品として葦のストローを開発し、プラスチックごみの排出を抑制。最終的にはエコロジカル・マーケティングの実現を目指す。




クラーク記念国際高等学校 名古屋キャンパス②

リス研6班

猫の交通事故を防ぐ

東谷山で猫の交通事故に関する情報を集めていくと人間の交通事故防止のための取り組みは盛んに行われているが、猫等の動物に対する防止策が圧倒的に不足していることが分かった。今後は上記の対策実現に向けて、地域と連携をとっていく。




愛知県立佐屋高等学校①

文鳥プロジェクトチーム

絶滅を防ぎ命をつなぐプロジェクト！ 白文鳥よ再び！

白文鳥は、愛知県富田で誕生した。350年の歴史を誇る弥富文鳥文化も、現在、生産農家は残り2軒。消えていくこの現状をなんとかしたいと、私たちは現在約40羽の文鳥を飼育している。今後、ペアの見直しと繁殖環境の改善を行う。




三重県立四日市西高等学校

Yon-nishi SHIZENKEN

鈴鹿山麓におけるフクロウの保護活動

三重県・準絶滅危惧種指定のフクロウの保護、研究、教育（啓発活動）を進める。四日市から始めた巣箱掛けの保護活動を、鈴鹿山脈を中心に59箱の巣箱を設置。フクロウをシンボルとした生物多様性のある森づくりをさらに推進していく。




学校法人鈴鹿享栄学園 鈴鹿高等学校

鈴鹿中学・高等学校SOM

海岸清掃とロボットを使った環境教育活動

海洋ゴミ問題の解決・改善を目標に活動している。海岸清掃は、月1回を目標に運営はすべてメンバー（学生）が行う。環境教育活動のロボットはすべて自作で、伊勢湾に棲むアカウミガメ、スナメリ、ハセイルカなどをモチーフに造っている。




京都府立宮津高等学校①

フィールド探究部巨樹係

巨樹は語る

宮津市畑で「大ナラ」と呼ばれる木と出会う。幹周は5メートル。全国10位であることに驚き、地域の財産だと感じ、丹後の巨樹のデータベース化に着手した。この調査を通して、自然が豊かだと言われる丹後を客観視できると考えた。



クラーク記念国際高等学校 名古屋キャンパス①

DWP Diversity World Project

生物多様性のための企画立案

名古屋市の東谷山で外来種についての実態調査を行う。外来種が在来種の生態系へ大きなダメージを与えているが、外来種を急激に減らしてしまうと逆に生態系が崩れてしまうこともわかった。正しい理解の啓発活動を行っていきたい。




愛知県立木曾川高等学校

総合実務部

絶滅の危機に瀕した木曾川のイタセンパラ！ 私たちにできる活動は何か？

絶滅危惧種ⅠA類指定「木曾川の淡水魚 イタセンパラ」の木曾川中流域のワンドや溜め池での生息環境を取り戻したい。水、植物、魚類、動物等に対し広い視野を持ち、イタセンパラの保護につながる活動を続け、「地域の宝」にしたい。




愛知県立佐屋高等学校②

カメプロジェクト

「タートルチップの可能性」～生物多様性・農耕地の保全と外来種の活用～

生態系を守り、地域の農業被害を食い止めるため、アカミミガメの駆除活動を行っている。また、アカミミガメの恵まれなかった命を農業に活用することも目的とし、カメの甲羅の肥料化の研究を行い、作物の生育を良くすることが分かった。




三重県立四日市農芸高等学校

自然環境コース

より良い自然観察園を目指して ～自然を身近に感じる公園づくり～

校内の自然観察園は、完成から15年を過ぎ、外来種を含めた雑草が繁茂している。また、昨今の異常気象により植栽した山野草などが枯れてしまった。そこで無機的環境の再検討を行い、石と水に注目。ピオトープを造ることを目指した。



近 畿


30 団 体

京都府立宮津高等学校②

フィールド探究部里山係

上世屋で学び伝える

丹後の豊かな自然と、自然に寄り添った人の暮らしや文化を学び、未来へとその価値を繋げていくため、フィールド活動を展開している。伝統技術の体験、放棄棚田の活用、炭焼き、生態系の保全を目的とした環境整備・研究等を行っている。



京都府立久美浜高等学校

農業クラブ
京丹後市久美浜町における海岸マツ林の再生を目指して

①マツの学習、京都府・京丹後市職員による講義、②マツ林でのボランティア活動、除草や除伐、芯止め等、③植樹後の管理・生育調査、植樹地の下刈り、樹高・根元径の測定、④「森林・林業交流研究発表会」など各種シンポジウムに参加・発表。



京都府立綾部高等学校

分析化学部
地域と歩む由良川保全プロジェクト ～由良川レンジャー奮闘記part2～

由良川の化学的・生物的水質調査、環境出前授業、清掃活動など安全安心な食料生産の確保、生物多様性保護のために取り組んでいる。由良川クリーン作戦は地域に定着してきた。第7回目の今回は、過去最高の230名の方が参加。



大阪府立農芸高等学校①

酪農専攻 FARM GIRL
持続可能な社会の実現に向けて 一食と農で解決する環境問題～

「食で社会を変える」をキーワードに、酪農教育ファーム活動を展開。近隣中学校でDVDを活用した食育授業を実施。食育授業が学校給食の残乳の減少につながるという結果を得た。関係団体と連携し、牛乳の廃棄や消費減少問題に取り組む。



大阪府立農芸高等学校②

総合環境部
住み続けられるまちづくりのために

「合鴨水稲同時作」を実践。お米を栽培する時に、稲を植えてから合鴨のひなを水田に放し両方を生産する。農薬や化学肥料を使用せず、合鴨の飼料の削減もできる。鴨肉は、「農芸鴨」という名前で大阪産に登録され、地産地消につながった。



京都府立木津高等学校①

ソーシャルビジネス研究部
Kakishibuを世界基準に

マイクロプラスチック問題に着目、「柿渋」を使用する解決プランを考えた。木津川は日本三大渋柿「天玉柿」の産地。ビニール袋の代わりに新聞紙を柿渋でコーティングした紙袋を作成。現在、企業と柿渋紙袋の大量生産に向けて協議中。



京都府立木津高等学校②

園芸部 田んぼ隊
お米を化学肥料の力を借りず作りつづけるとどうなるのか

化学肥料を使用しなくても採算がとれるお米作りを目指す。微生物の働きに注目すると人と田んぼと微生物の深いつながりの一端が見えてきた。循環型農業の鍵を握る微生物の働きと田んぼ作業と人間の健康との関連性を解明したい。



大阪府立泉鳥取高等学校

地球をきれいにし隊
分別の重要性 ゴミ箱の大切さ

学校の中のゴミや落ちていたゴミを調べた。不分別のゴミが多いことが明らかになり、人が興味を持ってくれるようなゴミ箱を作って設置した。デザインを工夫することでポイ捨て削減に繋がった。文化祭でもこのゴミ箱を設置してみる。



兵庫県立豊岡総合高等学校

インターアクトクラブ
インターアクト米 稲作

東日本大震災、熊本地震の被災者支援のため、環境問題を考えるため、現在の農業を見つめ直すための目的で、無農薬アイガモ米の稲作を実践。また、アイガモの育成、稲の生育、水中生物などの理解を深め、生命の尊厳を考える。



大阪府立長尾高等学校

理科研究部
船橋川の水質定点モニタリング

①水質調査…月に最低1回、船橋川の水質、気温、水温、水質について調査。②防災…大阪府北部地震と台風による被害とその復旧の状況を調査。地すべり地の現地調査。③水質環境啓発…全国的に、また地元で研究発表。



関西創価高等学校

理科環境部
学校の生態系を守れ！外来生物を釣って肥料に

学校の池に特定外来生物のブルーギルとアメリカザリガニを発見。釣りをして駆除。さらに釣った外来生物の粉末肥料を作成。その有効性を確かめるため、ウキクサ、コマツナ、レタスなどの植物を育てる際、土壌に添加する実験を行っている。



近畿大学附属豊岡高等学校

鶴部～ToLive～
人とコウノトリを繋ぐ架け橋に～鶴部2年目の軌跡～

ラムサール条約に登録されてあるコウノトリの繁殖拠点「ハチゴロウの戸島湿地」で、コウノトリのエサとなる生き物を増やす湿地保全に取り組む。湿地に多様な生き物が棲める環境づくり、外来種駆除、清掃活動などを行っている。



兵庫県立香住高等学校

海洋科学科 アクアコース 餌の研究チーム
海と川のアユの行方を調査する～海で地引網、川で卵黄計測、耳石で検証～

アユは内水面漁業で重要な魚。近年、矢田川のアユが減っている。現在、川の流下仔魚や海での生活を追い、減少している原因を探った。捕獲したアユの耳石を解析して、川から海そして川に戻る一生を検証した。カワウの被害調査も実施した。



早稲田摂陵高等学校

Crazy Clever Science
“ペットボトル・トラス” × 未来のエネルギー「水素」 × 机の上の竜巻

ペットボトルを使ってリサイクルのシンボルとなるもの=ペットボトル・トラスを作成し、化石燃料の枯渇と資源のリサイクルの大切さを訴える。未来のエネルギーとして期待されている水素について正しく理解する実験、活動を進めている。



大阪府立園芸高等学校

ビオトープ部 蝶ハッピーチーム
企業と連携したバタフライガーデンづくり

「蝶の成虫が蜜を吸う吸蜜植物」と「幼虫が食べる食餌植物」をバタフライガーデンに植栽する。今までに食餌植物、吸蜜植物、花壇用植物、野菜苗を総数で36,000ポット、無償で配布。植栽することで、蝶をはじめとした様々な生物が復元した。



兵庫県立篠山東雲高等学校

自然科学部 外来生物堆肥化プロジェクト
共存のための堆肥～カエルたちの命と向き合って～

篠山城跡の堀には外来生物が多く生息し、生物多様性が失われている。私たちはウシガエルを捕獲し、それを堆肥にして丹波黒大豆の生育に有効であるかどうかの研究をしている。また、ミシシippアカミミガメの堆肥化にも取り組んでいる。



兵庫県立尼崎小田高等学校

サイエンスリサーチ科自然科学研究化学班
マイクロプラスチックを探る～高校生サミットへの発展～

地元尼崎港の環境再生に向けて取り組む。また、甲子園浜のマイクロプラスチックの調査、考察もした。昨年度から、環境と密接な関わりを持つ防災の視点も含めて広げた高校生サミットを実施。現在、マイクロプラスチック調査を行っている。



大阪府立刀根山高等学校

生物エコ部
地域の生物多様性を守り楽しむ！

校内や周辺地域の生物の多様性を維持し、豊かにするための様々な取り組みを続けている。生物種のリストや標本作成、希少種の保護増殖、3種類のホタルを再生など。希少となった植物や水生生物が校内のビオトープで着実に殖えている。



学校法人大阪学園大阪高等学校

科学探究部
環境DNAを利用した淀川水系河川における生物相調査と生物保全の実践活動

環境調査では、淀川など河川の水の汚れ度合いや環境DNAを調べる。環境保全では、生物を保全するための清掃活動を行う。環境教育では、箕面市や吹田市で市民参加型体験講座を企画・実施し、環境保全の重要性を伝える啓発活動を行った。



神戸山手女子高等学校

(仮) カメラ部
日本固有種であるニホンイシガメの保全と研究

ニホンイシガメの生態調査を行っている。特に今年からは、調査池の環境DNAの季節変動について調査研究を行い、この環境DNAの調査のノウハウを使って調査池で生まれたイシガメの個体の再導入先を探るため、神戸市内の池の調査を行っている。



須磨学園 & 灘 & 雲雀丘学園高等学校

オタマボヤ合同研究チーム
オタマボヤでバイオマス量を増加させる

須磨海岸は、赤潮など多くの環境問題を抱える。オタマボヤは、バイオマス量の大きい生物にも関わらず、他の生物との関わりはほとんど研究されていない。オタマボヤの種の動物プランクトンを利用し、深海に有機物を届ける研究をしている。



清風高等学校

アオコ班
水環境の新たな改善方法～アオコの抑制とヘドロの再利用方法～

絶滅危惧IA類指定のニッポンバラタナゴの保護を行っている。保護池を増やそうと考え、アオコがよく発生する池を訪れ、表層アオコヘドロを除去することを繰り返す。このヘドロの有効活用法としてヘドロの肥料化実験を試みている。



大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

エコ・プロジェクト
美しい地球を次世代に～捨てればゴミ、活かせば資源～

ライフラインが重要だと考え、バイオディーゼル発電機、電気自動車、電動マリオカートを作成。有事の際、地域や被災地で活用できる。ドローンで避難経路マップを作製。環境保全マップも作製中。一万人のエコキャンドル・ナイトも実施。



兵庫県立神戸商業高等学校

理科研究部
海洋プラスチックごみゼロに向けた啓発活動

海ごみゼロを目指した調査研究発表による啓発活動は、できるだけ多くの人に伝えるため、1年間に海外も含めた18会場で研究発表を行った。海岸漂着ゴミ回収は、合計16回実施。洗浄して資源ごみにしたペットボトルは1年間で2,300本を超えた。



兵庫県立北条高等学校

人間創造コースあびき班 自然科学部
あびき湿原の環境保全活動等を中心とした環境活動

「あびき湿原保全会」や研究機関と連携しながら、草刈りや木道づくり、湿原に生息する絶滅危惧種や希少種の観察、植生の調査等を行った。ヒメタイコウチ、ハッチョウトンボ、ヒメヒカゲを観察でき、貴重な自然が残っていることが分かった。



兵庫県立加古川東高等学校①

自然科学部地学班湿地チーム

ため池保全のための地域調査

ため池は現在、灌漑利用が減少傾向にある中で、保全や環境保護が課題となっている。①低水位管理を提案した。②生態系のフィールドワーク調査、生態系への影響を考察した。③ため池と河川の地形について形成史の解明の研究を行った。



兵庫県立加古川東高等学校②

課題研究ゴミ班

近郊農村におけるポイ捨ての地域性を追究する

ポイ捨てゴミの調査地として東播磨南北道路八幡稲美ランプ～上荘橋区間を選ぶ。たばこの吸い殻、空き缶、ペットボトルの回収個数を記録した。種類と位置を記録することにより人間行動が明らかとなり、ゴミ減量対策に寄与できると考える。



岡山県立玉野高等学校①

バイオマス発電研究班

岡山県産果物を用いたバイオマス発電の方法に関する研究

岡山県で栽培された果物の中でも廃棄されるものを利用して、水素を発生させることにより、新たなエネルギー源としての可能性を探る。発生する水素の量を増加させ、燃料電池での利用を考え、モモやブドウでの水素発酵の条件を確認したい。



岡山県立玉野高等学校②

2年1組理系選択者

文化祭でウミホタルの展示をしよう

SDGs14「海の豊かさを守ろう」の大切さを実感してもらうことを目的に、文化祭のクラス展示でウミホタルを展示した。自分たちで捕まえたウミホタルをシリカゲルで乾燥させ、来場者がウミホタルを光らせることができるよう工夫した。



和歌山県立田辺高等学校①

生物部 駆除班

外来種アフリカツメガエルの駆除活動

鳥ノ巣半島の生態系保全を目的に、外来種のアフリカツメガエルの駆除を行う。方法は、「罾による捕獲」、「水抜き」、「ネット作戦」、「金網作戦」など。活動を開始した2014年から現在までに5,410匹以上を捕獲。半島内での完全駆除を目指す。



和歌山県立田辺高等学校②

生物部 水質班

アフリカツメガエルがため池のプランクトンに与える影響

鳥ノ巣半島のため池は、外来生物のアフリカツメガエルが繁殖している。水質の変化で水中生物が増減するため、アフリカツメガエルがため池のプランクトンにどの程度影響があるのかを研究。カエルの捕獲、水質調査、実験、統計調査を実施。



青翔開智高等学校

鳥取の農業課題に立ち向かう班

農業サポートアプリの提供で鳥取の「生物多様性」を保全する!?

目標は、新規就農者の増加。農業（家庭菜園）未経験の素人の人でも気軽に農業の動作が行えるようなシステム（アプリ）の提供を考えた。今回は収穫した作物を評価する「診断機能・価値判定機能」で利用する画像認識AIシステムを作成した。



広島県立油木高等学校

地域農業実践グループ

耕作放棄地での竹チップの利用

地元の竹林が適切に管理されず放置され、住民を困らせている。放置竹林の伐採に取り組み、作業で出る竹をチップにし、土壌改良材や天然のマルチとして利用し、伐採した竹も有効活用した。竹藪も半分は伐採でき、坂道にも日が差し始めた。



岡山県立津山工業高等学校

化学部

竹の有効利用 ～工業高校の特色を生かした地域貢献～

地域貢献としての竹林整備では、光の差し込む竹林となり達成感が得られた。竹材の活用では、竹を微粉砕しペレットにすることによって、竹の消臭材としての活用が見いだせた。「竹の有効利用と地域貢献」を全国産業教育フェアで発表した。



広島県立世羅高等学校

鯉米

錦鯉廃棄稚魚を活用した鯉米生産を目指して

すべての錦鯉の稚魚を活用し、地域課題を解決する方法として魚堆肥を作ること考え実験を開始。廃棄される鯉から鯉肥料を製造することができた。鯉稚魚肥料による米栽培「鯉米」も可能。アミノ酸を多く含むおいしい米作りにも貢献できる。



広島県立庄原実業高等学校

農村環境創生研究部

田んぼアート～耕作放棄地を解決し、農村の景観を守る～

地域と連携し「田んぼアート」に取り組む。休耕田や耕作放棄地を有効活用し、美しい田園風景を創造して広く市民の方々に提案する。育苗、測量、田植え、稲刈り、完成イベントなど試行錯誤の連続だったが、地元の方々の協力を得て進めた。



岡山県立邑久高等学校

自然環境グループ 2019

タナゴ類保全プロジェクト ～二枚貝の長期飼育に挑戦～

タナゴ類保全のため、産卵母貝の二枚貝の屋内長期飼育に向け飼育環境やエサの種類や量の研究をしている。繁殖以外にも保全に向けて重要なのが地域住民への啓発活動である。地域の子どもたちにピオトープ池での生き物観察会を実施した。

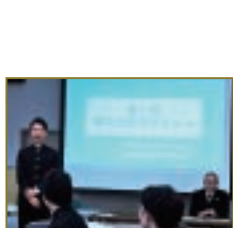


岡山県立瀬戸高等学校

Sらば 防災チーム

ODDP～岡山防災計画～

テーマは、県民の防災意識・知恵を高めるにはどうすればいいか。「地域防災ボランティアリーダー養成研修」に参加した。法律、条例改正の事例について学んだ。今後は、ICTを活用し自然災害の怖さや対処法などを発信し、防災ブックも作る。



広島県立広島国泰寺高等学校

科学部生物班 MPチーム

海環境におけるマイクロプラスチック汚染指標の作成

広島湾におけるマイクロプラスチック（MP）が生物に与える影響についての研究を開始。開発した指標を用いて海洋中のMP数を計測して汚染度を人々に広く伝え、人々の行動の変化や行政や企業のゴミ対策に貢献したいと考えている。



広島県立祇園北高等学校

科学研究部 マイクロプラスチック班

武田山・太田川のマイクロプラスチック検出

マイクロプラスチック（MP）の武田山の川の汚染状況と太田川への流出（汚染）状況を調査している。結果として武田山・太田川どちらもMPを発見することができた。今後は、どの種類のプラスチックかも調べ、河川の状態を整えていきたい。



岡山学芸館高等学校

医進サイエンスコース・ひがたーばんす

里海の聖地におけるベントス層変化から環境保全について考える

吉井川河口域などで干潟のベントス調査に取り組む。ブルドーザーなどの重機を用いた干潟清掃工事が行われ、複雑さを失った干潟が今後どのように生物多様性を回復していくのか、ベントス層の遷移は加速されるのか、ベントス調査を続ける。



山陽女子中学校・高等学校

地歴部

瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦～SDGsの視点からのアプローチ～

瀬戸内海の海底ごみや島嶼部の漂着ごみの原因は、沿岸部だけではなく、流入する河川の上流域や対岸部を含む生活圏から排出される生活ごみ。SDGsの視点から捉え、啓発活動、商品販売する経済の面からのアプローチなどの重要性を発信。



広島県立加計高等学校

森林を考える講座

持続可能な開発としてのカーボンマイナス法の構築と普及

間伐体験や間伐材を利用した木炭制作と商品開発を行っている。土壌改良剤兼カーボンマイナス実践資材「炭粉」や飾り炭商品を開発し販売。また、木炭の表面に穴をあけコケ類などを植えて癒し効果を得られる卓上鉢植えの開発にも取り組む。



出雲西高等学校

インターアクトクラブ

出雲発！ 海岸清掃及びマイクロプラスチック問題を考える

年間5回、海岸清掃を行っている。プラスチックゴミの調査は山陰地域10ヶ所で行った。海外からのゴミを減らすために、日本と韓国の中高生との交流会を企画、一緒に出雲市の海岸を清掃して、ゴミを減らすための討論会を行った。



岡山商科大学附属高等学校

工業技術同好会

地球温暖化による海洋と工業技術

「水中ロボットコンベンション2019」に参加。「ストップ! ヒート・アース2050」を企画し、各高校にポスターアピールしたが意識が低いと感じた。「全国海岸清掃ロボットコンテスト」、「ダンボールアートによる工業技術的・空・海調査機器」を検討中。



岡山県立倉敷天城高等学校

熱音響エンジン研究チーム

熱音響エンジンに関する研究とモデルによる鳴釜の再現

試験管で熱音響エンジンを作り、温度差で発生する音の振動数を測定する。同じ温度差でもより大きなエネルギーを取り出せる熱音響エンジンを作り、吉備津神社の鳴釜の再現に取り組み、SDGs9.4のターゲットを達成する探究を行った。



島根県立江津工業高等学校

エクステリアコーディネーター班

瓦で街を変える

地場産業の瓦産業で、不用となった採石の活用として花壇（エクステリア）への応用を試み、捨てるだけの割れた瓦や古い瓦を利用してエクステリアを作成。また化粧塗りを施し、仕上がりの美しさを利用してタイルの開発を研究している。



島根県立矢上高等学校①

プロジェクト学習地域未来化グループ

魅力的な地域にするために（ふるさと納税用の品物の開発）

ふるさと納税で邑南町が提供する品物を高校生が作る。1：サツマイモジャム（本校の農場でサツマイモを栽培し販売しているから）、2：肉味噌（石見ポークと本校自前みその組合せ）。試作品の改良を終え、食材供給者と加工者を募っている。



島根県立矢上高等学校②

プロジェクト学習水環境グループ

きれいな川を取り戻す～米ぬかが邑南町を救う～
川の水の利用を妨げている原因の一つが生活排水に含まれる石油系の界面活性剤にあると考え、これを天然成分(米ぬか)に変えることが必要と考える。洗濯機に入れて使えるようにぬか袋を作ったり、つけおき洗いをしたり試している。



四国
7団体

徳島県立徳島商業高等学校

校内模擬会社Comcom

私たちが守る未来～レジ袋サクゲン作戦を通して～

家庭にある再利用可能な紙袋を回収し、レジ袋の代わりに再利用してもらいレジ袋の使用量を減らす作戦。校内、イベント、スーパーと連携し実施。「レジ袋を削減すること」で、資源を守り、意識を変えることによって地球を少しでも守る。



徳島文理高等学校

食品ロス研究班

“MOTTAINAI”を愛言葉に

徳島文理中高校、計325名に食品ロスのアンケートを実施、「MOTTAINAI」は愛言葉SONGも作成した。食品ロス削減のキャッチコピーを手書きした団扇を作成し、徳島阿波踊り会館で配布した。食品ロス削減全国大会徳島大会イベントに参加した。



徳島県立阿南光高校&小松島西高校勝浦校&小松島高校&徳島北高校&新野高校

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム

資源循環型肥料の開発から東京五輪・パラリンピックへ、そして東日本震災復興へと続く環境社会イノベーションの取り組み

「刈草」をイノベーションした資源循環型肥料「もったいない2号」を開発。東京オリンピック・パラリンピックでの暑さ対策での木陰プロジェクトの樹木の用土に活用される。



香川県立多度津高等学校

建築科&写真部

地域と繋がる環境活動

地域社会との交流、環境活動を積極的に行っている。環境イベントへの参加が増え大きな成果となっている。活動は、①かまぼこ板ものづくり、②グリーンカーテンが交流の場、③古民家再生による地域の活性化、④地元の美味しい食材が缶詰に。



済美高等学校

Livth

Eat Local ～学びの発信とエシカル消費の普及～

活動の目的は、多様な人との「地産地消の推進」と「エシカル消費の普及」。主な活動は、①里山のお米作りプロジェクト、②トマトの栽培と野菜料理教室、③上灘漁協とのコラボ ～ちりめんじゃこを使った商品開発～、④鶏卵の生産現場を学ぶ。



愛媛県立上浮穴高等学校

カホンプロジェクトチーム

森林の想いを音色にのせて ～カホンを通じた森林環境教育の実践とドイツに学ぶ持続可能な森林管理～

持続可能な森林管理技術の確立、木材利用の推進と啓発、SDGs達成の取組が活動の3本柱。カホンをういた森林環境教育の実践。環境に対する影響の評価として、現在までに作成したカホン1,291個でレジ袋45万枚分の炭素を固定した。



高知県立伊野商業高等学校

和紙研究会

土佐和紙で世界を変える!

地域の宝である土佐和紙の魅力を知り、製作現場に伺い、新たな商品開発活動に取り組む。いの町[kami祭]で、街頭調査や和紙のアピール、自分たちの製品販売を実施。「四国観光トロッコ列車 幕末維新号」では記念乗車証3,000枚を渡した。



九州・沖縄
26団体

福岡県立直方高等学校

自然科学同好会

ウチワゼニクサの駆除に向けた生態調査

北アメリカ原産の外来植物・ウチワゼニクサの基本的な繁殖特性の調査および新たな駆除方法の提案をするため、学校内の有志、遠賀川水辺館のスタッフの方、国土交通省の方とともに研究をしている。最終的には完全駆除を目指す。



福岡県立嘉穂総合高等学校

全国初、学校で生徒がドローンの免許取得ができ、現在地元のJAと連携しドローンの農業分野の活用を行っている。ごみの分別にも力を入れており、校内美化コンクールや地域清掃活動をしている。更に地元桂川町活性化と被災地朝倉市の支援をしている。



福岡工業大学附属城東高等学校

生徒会環境委員会

ゴミの分別・清掃ボランティア活動

全校生徒約2,000人、『チーム城東』をモットーに元気に明るく学校生活を送っている。部活動も盛んで日頃の学習はもちろん挨拶や掃除なども全力で取り組んでいる。環境活動にも力を入れており、生徒一丸となってゴミの分別や清掃ボランティア活動などに取り組んでいる。



福岡県立糸島農業高等学校

根っこ部

世界の畑を根こぶ病から守りたい

世界に広がるアブラナ科植物にだけ発病する難防除土壌病害「根こぶ病」の対策技術開発と啓発を通じ、過剰な農薬の散布や土壌改良剤の投与を軽減させ、未来にわたってアブラナ科植物の栽培が安心してできる環境にするための活動をしている。



福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究

柳川掘割という歴史資産を使ってニホンウナギと人との関係を紡ぎ直し絶滅危惧種の絶滅を回避することで柳川の食文化の継承と経済基盤を維持することを第1の目的にしている。現在までにウナギ稚魚を2,836尾掘割に放流。研究を続けている。

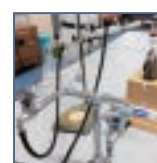


大分県立日田高等学校②

ジビエ班

ジビエで日田を明るく

本来は捨てられるジビエの脂に注目。脂の使用方法がないため研究を始め、脂を使ったクリームやろうそくの実験を行った。日田の「千年明かり」祭りで使う竹灯籠の竹の中に入れるろうそくをジビエの脂で作ろうと地元の方たちと研究している。



大分県立大分東高等学校

農業部

花育活動を通じた地域交流について

農作業で地域に花の笑顔を届け、楽しさを伝える「農花プロジェクト」。大分駅にプランターを設置した。園児・小学生・中学生への花育活動では、活動人数が延べ363名。多くの住民や子供たちに花の素晴らしさを伝えることができた。



佐賀県立伊万里農林高等学校

ねぎ麵プロジェクトチーム

規格外ねぎを利用したねぎ麵の商品開発

伊万里市の地域農産物「ねぎ」。農家では規格外ねぎが年間1tも出る食品ロスの課題がある。規格外ねぎを使い商品開発ができないかと考え、ねぎ種とねぎだしスープの開発をした。規格外ねぎの利用を向上させ食品ロス改善につなげたい。



博多女子高等学校

Hakata Girls' Shop

竹採物語～私たちが救う竹林問題～

糸島市のメンマメーカーから竹林問題の話を聞いた。私たちは模擬会社で、商品開発をするならメンマしかないと考え、メンマスナック菓子「博多BARIMEN」を開発した。この活動が、全国の荒廃竹林美化活動に役立つことができると考えている。



福岡県立武蔵台高等学校

科学部

地域環境保全への取り組み～ホテルの飼育を通して考えたこと～

現在、在来種の「ゲンジボタル」「ハイケボタル」「ヒメボタル」の生息数が非常に減っている。本校周辺地域の環境保全を行うとともに、地元の「天拝 螢の会」の協力の下、筑紫野市地蔵川水系のホテルの幼虫の飼育・観察活動を行っている。



大分県立日田高等学校①

bamboo班

日田はいつモウソウチクに覆われるのか?

外来種モウソウチクの竹害により森林が枯れ、水害時に土砂崩れなどの二次災害が起きている。これを防ぐために日田・玖珠地域に広がる竹林で複数の野外実験・調査、竹林の進行シミュレーションを行い、竹害の深刻化に警鐘を鳴らしたい。



大分県立玖珠美山高等学校

チームSATOYAMA

私たちの手で 地域の自然と環境を守れ! PartII ～パークを利用した循環型農業～

地域の基幹産業である林業から出たスギ樹皮パークを農業用資材として有効利用し林業と農業の循環をつくり、脱炭素社会を目指す。糖度の高いトマト栽培にパークマットが対応できるかを検証し、トマト以外の野菜の栽培にも取り組んだ。



佐賀県立鳥栖商業高等学校

流通経済科

鳥栖HAZEROUプロジェクト

鳥栖市周辺地域は、かつてははぜの実から抽出する「はぜろう」の製造・輸出の中心地。この「はぜろう」で作る和ろうそくを現代市場に復活させ、地区の原風景を守り、環境保全につながる活動をしている。地域の方々との商品化を進める。



長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

身近な環境問題解決法の検討 ～放置竹林対策に向けた菌床栽培法～

キノコ菌床栽培の一般的な「米ぬか」などの栄養体を「竹チップ」に換えると、かびなどの雑菌が発生しにくく、生育スピードや品質にも問題が無いことが分かった。栽培農家での実証実験も終え、放置竹林対策となるのが期待されている。



全国大学生の環境活動

北海道から沖縄まで、日本全国の大学生が興味深い環境活動に取り組んでいます。

今回は、『全国大学生環境活動コンテスト (ecocon 2019)』、

『第13回 環境マネジメント全国学生大会』、

『近畿地区 大学生SDGsセミナー』、

『九州地区 ユースSDGsフォーラム』に

参加した大学・団体の活動をご紹介します。

全部で25大学・30団体を掲載。今後の活動の参考に、そして連携にぜひご覧ください。

(協力：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会、環境マネジメント全国学生大会実行委員会)

全国大学生環境活動コンテスト ecocon 2019



第13回 環境マネジメント 全国学生大会



近畿地区 大学生SDGsセミナー



九州地区 ユースSDGsフォーラム



長崎県立口加高等学校

グローバルコース 環境班 与茂作川日記

虫が見られなくなった与茂作川の環境を復活させ、再び虫を飛ばそうと研究を始めた。与茂作川が虫にとって住みやすい環境なのかを調査したが立証はできなかった。しかし虫は自生していた。今後も地域の方と協力しながら研究を続けていく。



長崎県立五島高等学校

五島高校五島環境部

なんか気候へんど〜？ 食い止める！ 気候変動！

「五島の海が綺麗な海ではなくなってきている」と感じる。海ごみ問題から気候変動は一つなぎの問題で、他の問題も関わる。そこで、海ごみと気候変動についての五島市高校生環境シンポジウムや五島市内の人たちとビーチクリーンを開催。



長崎県立対馬高等学校

ユネスコスクール部

対馬市役所等と連携した絶滅危惧種の保護活動とボランティア

国内希少野生動物種に指定の「ツシマウラボシジミ」と対馬在来種「ツシマジカ」の2つの生物の生育環境のバランスを整えることが最終的な目標である。また、日韓ビーチクリーンアップにも参加。現在の環境問題を肌で感じる場である。



熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎

カヤノミカニモリの保全

熊本県「絶滅危惧IB類」である海産巻貝カヤノミカニモリの保全を目指し、生活史の解明に取り組んできた。季節移動、食性、産卵時期についていくつかの知見を得て、現在は幼生の人工飼育に取り組む。立看板の作製・掲示によりカヤノミカニモリの生息地保全にも取り組んでいる。



熊本県立南陵高等学校

総合農業科環境コース

フウセンカズラで広がる緑の地域活性化プロジェクト

緑化植物フウセンカズラで、家庭の緑化活動啓発と地域活性化に取り組む。活動は、あさぎり町やくま川鉄道と連携したプロジェクト「ハートのオブジェの製作・設置」。お土産品の開発・販売。保育園児・小学生を対象とした植え付け体験教室。



宮崎県立都城工業高等学校

化学技術部

都城地区河川水質改善プロジェクトから始めた9年間の環境保全活動

大淀川と浄化装置「ひも状接触材」を設置した排水路の採水と水質検査を毎月継続して実施している。国土交通省主催の大淀川特別シンポジウムで、大淀川の水質について講演をした。地域への報告、発表、展示・説明の広報活動も行っている。



鹿児島県立市来農芸高等学校

ツバキ研究班

「家畜にも人にも優しい畜舎のあり方を考えて」をテーマにツバキを活用した臭気対策や、茶葉を採卵鶏に給餌して鶏卵の高品質化を目指して活動している。現在は動物福祉（アニマルウェルフェア）について研究を深めている。



鹿児島県立鹿児島水産高等学校

SAIKO

藻場再生におけるイカ資源の復活

指宿市岩本沖で、ダイビングを活用した地域貢献活動としてガンガゼを除去。藻場再生活動を行っている。今年度、ガンガゼの生息数が少なくなり、藻場が広がったため、藻場に卵を産むアオリイカが増えてきた。地元漁業者から感謝されている。



鹿児島県立薩南工業高校

ESD研究班

持続可能な社会のために何をすべきか

3つの視点で活動を実践。①廃棄と付加価値。廃棄物の3Rに付加価値を考える取り組みを行ってきた。②地域。地域産業との関連、身近な資源を素材にものづくりに取り組む。③伝える。高校生が小学生から次世代に知識や経験を伝える。



鹿児島県立屋久島高等学校①

屋久島高校環境コース

課題研究

①「自然における人の心の変化について」、②「屋久島の子どもたちと自然の関係」について屋久島の自然をセミナーを通して紹介した。③要注意外来生物であるシロノセンダングサについて「生育条件調査と適切な駆除方法」の調査をした。



鹿児島県立屋久島高等学校②

屋久島高校環境コース

口永良部島未来会議を通じた地域活性の取り組み

学生が島民の未来に対する思いを島民と話し、地元でできることについて考えるため口永良部島未来会議を開催。環境保全では、特に「海洋漂着ゴミの処理」をテーマとしてどのような取り組みができるかを話し合う予定。



沖縄県立沖縄水産高等学校

シーメンズクラブ

「豊かな海を守る」プロジェクト〜海ゴミとマイクロプラスチック問題の解決に向けて一歩踏み出そう〜

沖縄本島の天然ビーチ5カ所で漂流物調査。久高島、伊江島での漂着物とマイクロプラスチック調査。沖縄県実習船「海邦丸五世」で太平洋上の漂流ゴミ目視観測とマイクロプラスチック量調査、マグロ、ミズウオ、カジキの胃袋の内容物調査等。



北海道 北星学園大学

野原ゼミナール

北星学園大学経済学部経済学科の野原ゼミナール。環境経済学を専門に研究しており、主な活動の一つに学食の食べ残しを肥料にした循環型農業を行っている。



北海道 北見工業大学

環境保全学生委員会 (KITeco)

北見工業大学がISO14001の認証を所得するにあたって発足した団体。現在は、大学や周辺地域を対象として市民と学生が生活しやすい環境を作るための環境活動を行っている。



北海道 北海道教育大学

札幌校北海道盛り上げ隊

北海道の農業や酪農について、実際に携わっている方達のお話を元に考えていく活動を行っている。また、お話の内容を元に、農業や酪農について伝える活動に参加した。



岩手 岩手大学

環境マネジメント学生委員会

環境教育、古紙回収、風鈴プロジェクト、グリーンカーテンの生育、ごみ分別率調査、留学生向けごみ分別講座、企業や団体を訪ねる視察研修、小型家電回収、ハーバリウム製作WSなど多岐にわたって活動している。



千葉 千葉大学

環境ISO学生委員会

ISO14001、50001に基づきEMS・EnMSの構築・運用をしている学内最大級の学生団体の構築・運用をしている学内最大級の学生団体。また、NPO法人格も取得し、地域の小中学生の環境教育や環境保全に取り組んでいる。国内外から賞もいただいた。



学生団体

学生団体 おりがみ環境チーム

多くの人々が「環境」を自分事として捉えることを目標に活動している。教育機関、市民団体、行政、企業などと連携したイベントの企画運営。2020キャンドルナイト。上野夏祭りなど各種イベントにブース出展もしている。



埼玉 日本工業大学

学生環境推進委員会

本委員会は現在、二年生6人、一年生8人、計14人で活動している。企画としては週一で行う学内のタバコ清掃、約月一で行うエコキャップ回収、年に1回のリサイクルショップ、宮代町民祭りなどの企画を行っている。



埼玉 獨協大学

環境国際団体DECO

川に落ちている自転車やバイクを拾い上げる「サルベージ」や大学内でのPETキャップ回収、ゴミ拾いなど地域ボランティアを中心に活動している。日頃は部員同士で環境や国際問題についてディスカッションを行っている。



愛知 中部大学

ESDエコマネーチーム

持続可能な発展を担う人材になることを目的に学生主体の標準化教育を推進。標準化教材の開発、青少年育成の手伝い、専門家訪問、企業向けSDGsの啓発、新聞社連携の講演、海岸清掃などの活動をしている。



三重 三重大学

環境ISO学生委員会

ごみ減量化、家具・家電製品・放置自転車の再利用、屋上緑化、緑のカーテンづくり、海岸清掃、環境学習、環境イベントへの参加などを実施。今後も「世界に誇れる環境先進大学」を目指して積極的な環境活動を行っている。



東京 首都大学東京（東京都立大学）

環境サークルnature（なちゅーる）

首都大学東京環境サークルnatureは、「人×自然」を理念に、自分たちが企画したフィールドワークを軸とする活動を通して地域の環境について知る、考えるというサークル。



東京 芝浦工業大学①

SDGs学生委員会 綾いと

学内のSDGsへの理解が浅い中、「1人でも多くの人にSDGsを他人事とせず「問題意識」を持ってもらう」ことを目的に活動中。現在はSDGsへの関心や意識を高める為の環境を整える活動をしている。



京都 同志社大学

えこなま@京田辺

同志社大学、同志社女子大学の環境教育活動チーム。京田辺市民の環境保全意識向上を目標に環境授業、「スポゴミ」、自然観察イベントなどを開催。今後は、「全国で使える汎用性の高い教材」の完成を目指す。



京都 京都経済短期大学

経短ごみゼロプロジェクト

私たちは、容器包装ゴミや食品ロスなど、いかにごみを減らすかを活動の目的としている。リユース食器の導入を地元の自治会主催の夏祭りなどにすすめて実践したり、なぜ食べ残しが発生するかなどを研究している。



東京 芝浦工業大学②

石垣島をもっと元気にするプロジェクト

私たちは、石垣島でのサンゴ礁の保全を目的としている団体。サンゴの白化・死滅の様々な要因の中から人為的要因の一つである過度な赤土流出の問題を改善し、サンゴ礁保全を行うことを軸として活動を行っている。



東京 早稲田大学

学生環境NPO環境ロドリゲス

環境ロドリゲスは、環境に強い意識を持つ学生を中心とする学生環境NPO。私達は「学生が主体となって、多様なアプローチから環境問題の解決に貢献する」という理念のもと、9つの企画に分かれて活動している。



大阪 大阪大学

環境サークルGECS

「学生」という立場から環境問題の改善に貢献する」という理念のもと、大阪大学豊中キャンパスを拠点に大学内外で活動している大阪大学公認団体。6つの班と1つの委員会に分かれ環境活動に取り組んでいる。



兵庫 神戸大学

地域密着型サークル「にしき恋」

人口減少、少子高齢化が進む丹波篠山市西紀南地区で、農家さんのお手伝いを中心に活動している。地域密着をモットーに、地域活性化、地域の課題解決に向けて地域を巻き込み新しい取り組みに多数挑戦している。



東京 東邦大学

東邦Ecolution

東邦Ecolutionとは、大学における課題を省エネ（eco）で解決（solution）することを目的に2017年に発足した学生環境団体。現在学内では古紙回収活動や、レジ袋有料化などの取り組みもしている。



神奈川 東京都市大学

ISO学生委員会

東京都市大学横浜キャンパスが取得しているISO14001の取得維持と学内外の環境意識向上を目的に3つの部会（環境教育部会、省資源部会、省エネルギー部会）に分かれて幅広く環境活動をしている。



奈良 近畿大学農学部

学生団体FeelLink

FeelLinkは、「次世代環境を切り開く人材を育成する」ことを目的に活動しており、人と環境の架け橋になることをキーワードに、大学・NPO法人・企業と連携しながら、環境問題を啓発している。



鳥取 公立鳥取環境大学

「鳥取県版環境管理システム（TEAS）」を取得し学内に指導している。JUMP～日本列島を軽くしよう～イベントを実施し、鳥取砂丘の外來植物の除草活動や景観保持を行い持続可能な地域づくりを目指している。



長野 信州大学松本キャンパス

環境学生委員会

松本キャンパス環境学生委員会では、バガスモールド（サトウキビの搾りかすから作られる土に還るお皿）を土に還す実験や、地域のイベントの参加・周辺地域のゴミ拾いなどの地域貢献活動を行っている。



長野 信州大学繊維学部

環境学生委員会

主に上田キャンパスで22人で活動している。畑係、太陽光パネル係、エコプロ係、みんなの本棚係、東雲祭係、広報係の6つの係に分かれている。地域清掃などの地域貢献も進んで行っている。



福岡 福岡教育大学

「持続可能な開発のための教育」受講者

教育に関する専門的知識技能を獲得し有為な教育者を養成している。2018年度よりESD（持続可能な開発のための教育）が授業科目になり、持続可能な社会の創り手を育むための教育の実践に向け日々努力をしている。



長崎 長崎大学

ながさき海援隊

海岸ゴミ問題解決を目的とし活動している団体。長崎市内の海岸清掃を行い、国際海岸クリーンアップ（ICC）という国際的に統一された方法を用いて漂着物の調査も行い、市民のみなさんに対する啓発活動も行っている。



長野 信州大学工学部

環境学生委員会

学内の活動では、過ごしやすいキャンパスづくりを目指し、敷地内の整備や学生・職員に向けた啓発を行っている。学外では、環境イベントの企画・運営に積極的に参加し、地域の環境活動の活性化に貢献している。



岐阜 岐阜大学

環境サークルG-amet

環境報告書作成、大学祭古本市出店、大学内の環境整備・緑化活動、岐阜市環境イベントへの参加、地域資源回収の意見交換会参加、エコプロ参加。今後は、下宿用品リユース市、リリパック活動も予定している。



沖縄 琉球大学

エコロジカル・キャンパス学生委員会

身近な環境問題に関心を持ち、学生の視点から何が出来るかを考え、実行に移すことを目的に活動をしている。Plogging（ジョギングしながらごみ拾い）、キャンパスエコツアー、生協リリパックなどを実施している。

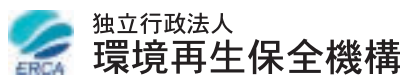


生物多様性わかものネットワーク

様々な問題に取り組み、生物多様性と共生する社会を目指すため、生物多様性やその問題を「普及啓発」していくこと、若者という立場で「政策提言」すること、活発な若者を繋ぐ「ネットワーク」を軸に活動している。



第5回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会が開催されました。



会場：国連大学

第5回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

主催 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステナビリティ高等研究所)

後援 読売新聞東京本社

協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス (EPO)
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
ESD活動支援センター

協賛 キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社
SGホールディングス株式会社 株式会社タニタ



2020年2月8日(土)、9日(日)の2日間、東京・渋谷区にある国連大学および東京駅近くの小ホールにおいて「第5回全国ユース環境活動発表大会」が開催されました。

今年度は、全国162の高校(団体)より応募をいただき、全国8ヶ所で地方大会を開催いたしました。

また、地方大会にて選出された16高校が一堂に集まり、全国大会を開催しました。

いずれの高校も大変に素晴らしい発表で、その内容は環境保全、地域の課題解決、継続的な調査研究、技術開発、商品開発、国際協力など環境活動は多岐にわたり、さらにSDGsへの取り組みを関連付けて発表されました。

出場高校と表彰 (全国16高校)

環境大臣賞

広島県立世羅高等学校 鯉米

環境再生保全機構 理事長賞

京都府立木津高等学校 ソーシャルビジネス研究班

国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

青森県立名久井農業高等学校 Treasure Hunters

読売新聞社賞

北海道美幌高等学校 環境改善班

特別賞・高校生選考賞

愛媛県立上浮穴高等学校 カホンプロジェクトチーム

特別賞・先生選考賞

石川県立翠星高等学校 食品科学研究会

優秀賞

北海道標茶高等学校 地域環境系列 環境ゼミ キノコ班

仙台高等専門学校 名取キャンパス 仙台高専 香りの抽出グループ

栃木県立栃木農業高等学校 農業環境部 環境活動班

学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校 バイオメタン班

学校法人鈴鹿享栄学園 鈴鹿高等学校 鈴鹿中学・高等学校SOM

京都府立綾部高等学校 分析化学部

山陽女子中学校・高等学校 地歴部

香川県立多度津高等学校 建築科&写真部

長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部

沖縄県立沖縄水産高等学校 シーメンズクラブ